



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

念願の薬学部6年制に 応える

一部の業界では「上を下への大騒ぎ」でも、その業界以外の人々にとってはまったく知られていなかったり、関心もなかったりということが世間ではよくあります。

何を隠そう薬剤師や薬業界にも同じことがあてはまり、「薬学部6年制」についてはかなりホットな話題ですが、世間的には「えっ、そうなの」といったところではないでしょうか。

平成18年4月入学の薬学生から、薬剤師の国家試験の受験資格として習得すべきカリキュラムの年数がそれまでの4年から6年になりました。

このことは長年の薬学会の悲願で、やっとこぎ着けたという大きな「事件」です。私たち4年制で学んだ者からすると、6年間も勉強す

るのは大変だろうなというのが当時の第一印象でした。

私たちが学んだ当時と大きく違うのは、「臨床薬学」という実習を含めた科目の充実が図られたことです。

「薬剤師」と聞くと病院のベッドサイドでの薬剤管理業務や、薬局で処方箋にもとづく「連の調剤業務」といったことが想像できます。数十年前に卒業した者にとっては当時と比べると大幅な業務の変化があります。

その業務に支障を来さないように薬学部を6年制に変更し、その「臨床」を身につけることが大きな目的になっています。

また、6年制への移行にともない、5年生には病院と薬局でそれぞれ11週55日間の実習が義務づけられました。実習生を受け入れる病院や薬局では「認定実務実習指導薬剤師」が指導に当たります。私もはじめての実務指導をおこなう「学校の先生もどき」になるべく講義や実習を受けてまいりました。

そして晴れて実務認定薬剤師になったのですが、まずは「どうしよう？」から始まり「できるのかいな？」になり「覚悟を決めた！」にいたりました。

そして「3人の薬学生が実習に伺います」との連絡をいただき、いざ出陣となり、種々の過程を踏まえて今年5月より第1回の実務実習が開始されました。

どのような学生が来るのかと期待を抱き、いろいろと指導しているうちに「学習」できるっていいなと、当時は苦痛でしかなかった学びについて改めて考えさせられました。

実習の期間中は、病院や薬局で実習している薬学生を見かけることでしょう。実際、薬局で薬の説明を受けられる方もいらつしやると思います。その際はぜひご感想をお伝えいただき、暖かく、かつ厳しく患者様の目線とはどういふものかを教えてくださいますようよろしくお願い申し上げます。